

生薬ニュース

近畿大学東洋医学研究所附属診療所調剤室

今月のピックアップ

とうにん 桃仁

トウニンとは・・・

トウニン：モモ *Prunus persica* Batsch 又は *Prunus persica* Batsch var. *davidiana* Maximowicz (バラ科) の種子です。中国各地、特に山東、山西、河北の各省で生産されています。

近縁種にアーモンド(甘扁桃)や杏仁があり、成分として青酸配糖体のアミグダリンを含みます。

【性味】 苦・甘・平

【薬能】 破血化瘀、潤腸通便

トウニンの成分と薬効・・・

主な成分として、青酸配糖体：アミグダリン(1.2%以上)、酵素：エムルジン、その他：脂肪油40～50%、遊離脂肪酸(オレイン酸、リノレン酸)1～2%、ステロール誘導体などが含まれています。

薬理作用としては、毛細血管透過性亢進の抑制、肉芽腫形成抑制、抗凝血、血小板凝集抑制などが報告されています。

トウニンの薬能として、瘀血(おけつ：血液の滞り、血行不良など)が原因と考えられる月経障害や、疼痛を和らげたり、脂肪油を多く含んでいるので、通便をよくする作用もあります。



せいおうぼ/さいおうぼ ぼんとう

西王母の蟠桃園と孫悟空・・・

西王母とは、中国で古くから信仰されている女神であり、天界にある瑤池(ようち)と蟠桃園の女主人でもあります。この蟠桃園には、3600本の桃の木があり、手前の1200本は3千年に一度熟し、これを食べると仙人になれ、中ほどの1200本は6千年に一度熟し、これを食べると長生不老が得られ、奥の1200本は9千年に一度熟し、これを食べると天地のあらん限り生きながらえたとされているそうです。



ご存じの方もおられるかと思いますが、西王母と蟠桃園は、かの有名な『西遊記』にも描かれています。ここに登場する孫悟空は、蟠桃園の管理を任されており、『蟠桃会(ぼんとうえ)』と呼ばれる、西王母が主催する宴会(蟠桃園の桃

を神や仙人たちが食し西王母の生誕を祝う会)に自分だけが呼ばれなかったことに腹を立て、用意された9千年に一度の桃を食べてしまった挙句に大暴れました。

これをきっかけに孫悟空は天界を追放され、後々三蔵法師の弟子となり天竺までの旅に出ます。

蟠桃は1ページ目の写真のように、平たい形をした桃で、現在日本でも僅かですが栽培されているようです。甘味が強く、香りも大変いいそうです。機会があれば一度食してみたいですね。

とうにん きょうにん
桃仁と杏仁・・・



トウニンの近縁種であるキョウニンもまた有名な生薬の一つですが、その形状や成分は両者とも大変よく似ており、見極めるのは非常に困難です。ところが、この二つの生薬は利用方法が異なります。

トウニンは、前述の通り駆瘀血（くおけつ）作用を目的として使用されますが、キョウニンは、鎮咳・去痰を目的として使用されます。これは、両者に含まれるアミグダリン含有量の違いが関係しているようで、**トウニン**よりもキョウニンの方が多く含まれています。

この含有量の違いは、**トウニン**とキョウニンを判別する方法にも採用されています。

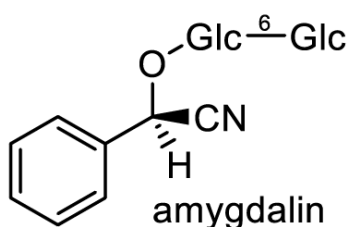


← 見分けられますか？ →



ちなみに、アミグダリンとは猛毒として有名な青酸と糖が結合した青酸配糖体です。ドラマなどの影響で、とても怖い印象があるかと思いますが、この青酸配糖体は桃、杏の他に、ビワ、梅、サクランボなどバラ科の植物の種に比較的多く存在しています。

極端に大量摂取すれば有害ですが、少量であれば問題なく体外へ排出されます。漢方薬の中に**トウニン**やキョウニンの名前があっても安心して服用してくださいね。



トウニンを含む方剤・・・

けいしぶくりようがん
桂枝茯苓丸（肩こり、更年期障害、血の道症など）

せつしょういん
折衝飲（月経不順、月経痛）

だいおうぼたんびとう
大黄牡丹皮湯（比較的体力があり、下腹部痛があって、便秘しがちなものの、月経不順、便秘など）

とうかくじょうきとう
桃核承気湯（比較的体力があり、のぼせて便秘しがちなものの、月経困難症、腰痛、便秘など）